詩經

第四

女

六章

和漢朗詠集下

雜

風　雲　晴　曉　松
竹　草　鶴　猿　雪　絵
付舞妓　文詞付遺文　酒　山水付山
水付漁父　禁中　古京　故宮付故宅

仙家（付道士隱倫）　山家　田家　隣家

山寺　佛事　僧　閑居　眺望

餞別　行旅　庚申　帝王（付法皇）

親王（付王孫）　丞相（付執政）　將軍

刺史　詠史　王昭君　妓女

遊女　旁人　交友　懷舊　述懷

慶賀　祝　戀　無常　白

雜

風

春風暗前庭前樹夜雨偷穿石上苔

入松聲亂欲悩明君之魂流水不歸

應送列子之家

漢主宇中吹不駐徐君塚上扇猶懸

坂上是則歌

ありあけの月のつれなくみしかども
なほうらめしき山のはの月

雲

竹垣に雲のかかれる夕べかな
月を吹く風

山家雲埋門客稀松窓寒風吹孤人夢
晝日中山不出雲有時見月夜方開
漢皓辭逢秦朝望嶽孤峯月陶朱
辞却乞蓴眼昆丘煙
昔時遊海非戴石空倫後倫豈
漢帝訪頭求晝々淮王鷄犬失留連

うそにかはるやあらうき世
たのまぬ玄山のこゝろ

晴

煙消門外青山色家重窓前緑竹低
レイ カイノ レイ ラン ハ オロカニノ クモ オサマリ ミチヒヤク リノ ホカニ ハク

茶盞く嶺間疎雲收七百里之外曝
フノ サン ハ ヒヤ カラツキ スメリ シ ジツ セキノ アヒリニ

命泉波冷月澄四十丈く餘
クモ キエテ ヘキ ラクニ テシ フ トナヌ カゼ トヨメ サイ イラ スイ メン シハム

雲消碧落天書解風動音搖水面皺

雙鶴出晨拔霧孤帆連水與雲清
サウ クハク イデ サハノ ヒライテキリヲ ユニ ハン ツラネテミヅ ヨモニ クモトキユ

歸巢高鶴群日暮飲渓龍昇雲不殘
カヘハ スウニ ツレ ミヲテ ヒ メクレノ ミネ イ ニ リヨウ ボツテクモ ズ ノコラ

うるのかすこゝろもみくしてみうらうらのこゝろ

曉

住人登飾於晨粧鐘宮雞初唱子相
ヒン コトヒ ノカザリテ シン サウヲキ キウニカケ ヒノ ユウ シ ナラ

行於清明函谷雞鳴
ヲイテ ザン ゲツニ カン コクニ ニハトリノナク

歳月の高き所一片西傾く月を見て
路独りく子猿店に宿す孤城百歩
之帥胡弟子歌
蔵経入室く中書城に登羅宴壇遠
之上紅燭室外
五鼎家扉初明時一題宮燈歌成時

あらしの有りまつ
をれてかりきりつの玄
りれせやや

松

但有双松南加下更一事心平
青山高高諸松性碧落空空稀雲心
千丈凌雪鷹鳴歌
誰彼養由く射

冬 アリ サウ アタル サイ ナニ サツニ ナレ イチジノ イタル シン チウニ
サイ ザンニ アツシテ ユキ ソラズ ニツノ セイラ ヘキ ラクノニ ナラメ シモ カケウ ツルノ コロニ
セン チヨウニシテイデ ユキフ ベシ メトツケイカウガ
メレア ヤブラン ヤウ ユウガ スガメニ ヒヤツ ホ ミダル カゼニ
レヤン

九夏三伏之暑月行合靖年之風
玄冬素雪之寒弱松軟君子之德
十八公業家家千千多宮中深
金谷園松天京壽燒林葉史豊家
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

竹

煙葉豪龍侵夜色風枝蕭颯欲秋声
院籍清場人歩月献肴豪鳥栖燈
音騎兵豪軍旦子献弧稱洗君唐文
子賓客白樂天愛為吾文

遥夢決抽鳴亂管盤根殘題外詩文

ふかれいこと入しきおられたきの
うれ物ちとようひとうく
きられもとすきごもうれきらの
ものうくうもようもかりる

草

水頭雨深堀之草水面風強怒々波
面旅頭多今何牡鹿角月夜

新草屢穿草茲顔閑く巻藜童深鎌
面豆原寒く梱
草色宮時初布讓島拝露暖軟綿窓
祀山有馬締猶寒傳野無人路閑流
かりそよまうをこのこのおうたた
ひとつもきえ海りこまとかき音
ありあるさのりれ音ひくくあひかきく
こまもきめはうもすす

風ふいてもくさらぬ
くさるのはまつせをきる

鶴

嗟少人而踏之位鶴有京軒悪釣口
之震邦家崔浦穿屋
同李陵之入胡似見異類似屈原之
在楚衆人皆醉

聲交松上千年鶴数落盃中百年挙
清唳枝声松下鶴寒光一點竹間燈
雙舞庭前花落家数拝池上月明時
鶴序舊生丁令威之詞可聽龍門新
儀陶安公之驚在眼
飢鶴性躁為乳哺鶴心閑清之眠

叫漢宮怨孤枕夢入風湯入五絃弾

わかうへにあらしのほすこ
ゆへをしらてたつすまるる
あいてはしきしるものさ
こころのあるるあ
つまつかのうたかたは
なとかをはみうらさへき

猿

燈堂霜滿一拝く秋鶴唳天巴峡秋

深夜之哀猿叫月

二俄巴峡初成字猿過巫陽始断腸

三聲猿後孟卿涙一葉舟中載病身

胡鳥一声秋破商客々夢巴猿三叫

曉雲行人之叢

人煙一穂秋村僻猿叫三拝曉峻深

曉岐羅深猿一叫豪林紀落島ち鳴
谷静澄風山鳥語梯危斜蹈疎橋色
ふしまをかたうつまきのやかうる
山のひりくまきのやかうる

管絃付琴笛

一聲鳳宦秋聲奏歳寒雲数柏寒
陰多猴山月

第一第二絃索々秋風拂松疎顔落
第三第四絃冷々夜鶴憐子蔭中鳥
才五絃拝尤掩抑龍吹凍河流不
流六絃(笛)自見寺内篇詠祇八幡
頌八々燈下哉衣婦誤奏同心一月祀
羅綺ゝ力重妻妬重情於機婦美絃

之在長曲想不聞於伶人
落梅曲舊譜空留柳絮新詞掩煙
想如音塵文君滯蓟東使屬中子紹
[illegible]

文詞 付遺文

流詞拂亂若游魚倚鈎出淀閑之
浮藻連翩若輪鳥聚徼隙曾雲之峻
遺文三十軸々々入手玉拜龍門原之
土埴骨不理名
言語巧偷鸚鵡舌文章分得鳳凰毛
錦帳曉開雲母殿白珠秋逼水精盤
昨日山中之木材取伶已今日庭前

之祀詞懇於人
王朗八章〻孫據倫居喪〻毀
江淹一時〻文集亡別賦〻遺文
陳孔璋詞宮人病臥相如賦只陵宮
贈爵新恩銘別石雍麟仮集学知五
[illegible]

酒

新豐酒色清冷於鵝黄盃之中長樂
詩色鳴咽於鳳凰音〻裏
吾建威將軍劉伯倫嗜酒作酒德頌
傳於世唐太宗賞宴白樂天亦嗜酒
作酒功讃以述之

陶淵明秋樹對酒長年人醉良如霜
葉雖可悲春
其升地多詩光筆家園云却酒爲卿
全性敢問力功者宜遵云憂侍力微
若使家明無解醉無言の樂不言ニ
醉卿氏之國四時獨誇温和ニ天
商泉郡ニ民一須未知何陰ニ地
菓貝ニ林家ニ所献合自消酒光下
名村ニ一所傳頌君義
文筆阮籍爲卿尊物乳劉伶同ニ
邑陳建德非行歩墳墓何便生亡
豆力卿家良脆弱康山宮家流飛

あ[illegible]をたづねてこゝらこゝろ[illegible]
むかしをしのぶとしてのこれるものとかきそへ[illegible]

山水

[illegible]ノイロハ八月ニ入ノ末カイノ火ヘニイルミノコエハハルカニオツハクウンノライコウ
[illegible]色迥除蒼海上泉拝遥落白雲中
[illegible]地本来無定主大都山属乾山人
夜鶴眠巣松月苦猿啼竜高峰煙雲
[illegible]扇抛[illegible]青[illegible]家羅惟[illegible]却望[illegible]

[illegible]ライ[illegible]ハ[illegible]ノイタヾキオヒタリグンゲンニタイテタニノソコサムシ
象頭峻興林頂発祥源幕叩谷心寒
なみこしてやまいみさいもなりまきり
あらはゆるひハしらとしてみまつ分て
[illegible]のかゝ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]
いくよ[illegible]

山水

泰山不譲土壌故能成其高河海不

猶細流那能成浮
巴猿一叫停舟於明月渡く過胡馬
匹馬千山入路遠く裏
白帝城高英雄遠く
磯日高山青蘿に浸る天秋水白蘆く
漁舟火歇寒煙暗騎路鈴声長き山
山似屏風江似帯叩舷歌徹月中

草木疎春風拂山猪之餌魚蝦
戦秋雲字河伯に民
韓康獨住く栖花樂山高月盡屋
之白煙殺惟新
山復山何工前成青巖之秋水復
汎家深出碧潭之底

山部赤人

海岸樹陰雨霽時

海岸孤村日暮時
山成向背斜陽裏水似迴流迷霧中

水付漁父

きやらくらくの
きらくらくの
きらくらくの
きらくらくの

過城址

牧馬頻驚平砂地行路
行旅無主古城春草

沈香枕

抽心長沙後琴奏鋪如眠
枕同音草砌中去衣是真梅雨裏行

水驛路穿兒古月花船棹入女郎香
蘆蘆枕前春晝酒船艙舟流夜深郭

同居屬於誰人業家殿くれうもも秋
水見於何處朱雀院くれの新家也

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

禁中

鳳池後面新秋月　龍殿前頭薄暮山
秋月高懸空漢外　仙郎靜坐禁園間
三千仙人誰得聽　金元殿角管絃色
鶏人曉唱聲聲明　[illegible]
警徹晴天[illegible]聽　眠鳥鐘夜[illegible]

朝候日高冠頭拔夜行沙屋履色忙
みるもあはれなるのうらみまくも
うたふかうのあはれやのさつのふの行さ
くるのうらをあひ見くる猶

古京

緑草如今廉康麗紅花定昔宮殿空
いそのかんみるさいうきこをきてみきも
けしこのさいしく花はるさみなり

故宮付故苑

陰森古柳疎枝春無春色寢落危墻
壞宇秋有秋聲
堂頂常石猶強弱柳真珠不滿鉤
強弓威弓有形森姑蘇臺之寂寞々
暴秦寢弓多虎狼感陽之煙斤々

右録従来仙洞者客在昔岐楼玄

孤花裏家峰翠松下声香栖風守廃郡

向晩霞以生白露終宵底見青天

言雖是家秋蘭泣深洞巧風於檜樹

忘すてゝあれたるやとのつゝまよ忠
月のもるりもうてはつきなり
さこすくてきまつりたゝにしきひろ海乃
しきひしかきもやうさまさる郎

いつへはもろともやまの行にきま寄
住まゐにむすふしもうあし

仙家 付 道士隠倫

壺中天地乾坤外夢裏身名旦暮間

薬爐有火丹應伏雲碓無人水自舂

山庭採薇雲隨洞中栽樹鶴還知

三壺雲浮七万里之程分浪五城霞

峙十二樓之接挿天
奇大味聞流於紅桃浦響風振
葉香分山桂之林
謬入仙家雖力求白雲客路帰日暮
繁華七世之孫
丹竈道成仙室静山中衆色川香俗
石床留洞嵐室拂山窠抛林鳥独啼
桃李不言春盛夏煙霞空説音誰栖
日高一丈空長山早晩望拝何故後
高山川落秋鹿白頭水波揚石耳音
虚洞有拝寒留因故山興主悦雲孤
通多度羅洞川寺跡春言柳の座

死てほとゝぎすのきくべきまよ
いくゝのよるをなかめつゝ

山家

遺愛寺鐘欹枕聽香爐峯雪撥簾看
廬山雨夜草庵中

京者花時錦堤下
漁父晚船分浦釣
牧童遠笛倚牛吹
夏為孝子廉府則
素倫忠士

南史則有陶潛
於翠巖下東顧亦有林塘
鷺白路者遥於朱檻
山路日暮滿耳猿詩牧笛聲洞

ゝ賓客中敬ゝ竹林幽則嫦娥弥非

戸島帰途服者竹煙松芳く多
紀国貴文醤文語国裏移家路上陳
時雨山陰脚色函初白水入門流
鶴石雲宝山松上衛峯晴月出宮中
山ちとはものさびしうもあれかな
ようこそとまるすえよりうらう
山さとの人のうらはまいまはうきまる
人めをまもりきりぬとはいへ

田家

現遠線頭抽早稲音羅裙苦屋新蒲
守家一大印人吹放野群半引犢休
野酌卯時菜露畦甲白稲花風
蕭条村風吹笛靡高陳月持衣程

[illegible]

[illegible]

[illegible]

隣家

明月好風三位夜緑楊百作四家春
可憐終身數相見子孫長作隣墻人
也[illegible]別業[illegible]何人[illegible]陸張者上隣

[illegible]

[illegible]

山寺

千株松下雙峯寺一葉舟中萬里身
更無俗物動人眼但有泉聲洗我心

不改卵天之門便作水車くるゝ
間水く橋以為お岸之色
秉馬象時ゝ思風煙くすれ散傳
愛物覚世俗く皆空
人如島路穿雲出地見龍門越水登
三千学者眼前尽十二因縁心裏空

泉石雨洗聲聞愛葉落風吹色相秋
山てゝれつゝめひろうねの云もとり
ふもられぬときくるそまひき
こゝろもとまらとすきくをのけう
うかみうつるよりにきうか

佛事

月隠重山弓峯扇喩之風息虚弓
動樹教之

願以今世世俗文字之業但言持諸
之誤謬爲當來世々讃佛乘之因縁
云論〻縁
百千万劫難遇難値八十二億功德林
丁寧仏〻中以西方九品蓮
臺〻間雖下品應足〻
雖十悪弓猶引接於猛風之扇雲
霧雖一念弓必感應吟〻巨海〻波
消露
昔切利天之安居九十日幻赤梅檀
而損之客今跋提河〻滅度二千年
金棺焼尽而礼足〻

浪洗欲消雖竹馬而不顧雨打黄葉
タヽカハレメテガイケイヲ　ナガクワスレタリ
國奇鶏而長忘
ヨンズルニゴウラクノワシヲイキヤサンゲツニヨカヽサキダツテコウキヨクノ
念極楽之一声山月正円之夜
ニクハイニサンテウノヒツクハホツスオモヒナシト
之舎三朝洞花欲落
ギヨクケイノコヱハオモフクハンケンヲワスルカトナフヱノワヲハカヘタリキラノヒニ
心聲色忘管絃奏如意代得知人
ニナヨノハチスハアニヤレハンサイリヤウノミツヲオモフノツキハナカクトヾムヒウコウテンニ
眼蓮豈養吉祥水而月長為十五天
モツテホウケノジンヅウヲナヾクミツクス（テモソウキコウヲホツステンウソウモント
以佛神通何所尽經僧祇劫欲別宗
タヽイテコホリヲオヒキメルカンヨクノツキハカヘテヒロヒツクスボサンノクモ
叩凍夏寒谷川拾無量之山空
スデニオハルミテイダナスハセンヨシノヤクハハレメテエタリカタキヲヒイチゼウノモンヲ
已終未習千年役初切經一乗文
こゝろせうくのうたいのきねをうへはきいの
きこゝろをくやうさまのゆらゆらなり
ものゝたゝ三ほういろのほけきやう
ゆゝしきこゝろあらせたまへ
ほくいつくしきほとけ
つらめてつゝしみうやまひ
なりたまへ

[illegible]

僧

蒼苔沈霧雨之壽初寒汀鷺立雪疊煙
嵐之勢晚寺僧歸
鄰寺訪僧問書月立林樹客醉眠
室有母儀夏八臣在中夫之月
室有卵跡夏以偃息於五臺之雲
明鏡作而西境顯白雲不着下山來
觀室淨侶心懸月送秀僧首到霜
鶴同翅刷千雪僧尤眉盡八字宮
[illegible]

三月八日ゆきふる夜すこしてつもりぬるとこまやかなる事

閑居

不獨記東都履道里閑居泰適之樂亦令知皇唐人和家有理世安樂之音

宮車一去樓臺空十二長空隙駒疾

迫待羅之三千暗光

遊思不窮深巷無人之處結陽欲沈

閑宮有月之時

鶴唳閑宮見君子書琴展時拳故人

人間榮辱因緣林下幽閑氣味深

宮廷自洗心長別世事後入口不言

慧書羅衣抽簪於
擬鼓舷於東海
都府樓纔看瓦色
聽観音寺只聽鐘聲
海跡茫茫拖苔位月
陶門幽絶春別面
[illegible]

眺望

風翻白浪花千片鳴點青天字一行
出嶺圓而東日山半掛雲根暗
隔翠岩而西顧家鄉悲没煙樹
見天台山之高嚴四十五尺波白
望香安城之高樹百千万青青

江霧陽浦入煙霞湖水連天鳴鶴島
一行斜鳴雲端滅二月紀郷外客
為眼前景雨後春情孤鑿陽
公はをいやるさ仏ふとふま物て
ゆこそそうおうう紀なうう

餞別

興君任云紀行盞力秋し湖盡一盃

新潟程駅思於鳴山之暮雲行
沼宮嬰於鳴時之陸風
音聚丹馬競寸陰お十五年く四し
四畳敷欲一于於二百余夜
楊岐路滑秋之夜入多年寺門波
人うを紀行日

万里東来何為日一生西望是乗槎
九枝燈畔唯明月一葉舟前不待秋
欲入空山訪仙客遠石火向風吹
[illegible]

行旅

孤館宿時風雨夜虹消雲霧水連空
行々重行々明月清江夜色不盡
別々後々古風浦音聲猶深
曉入長松間泉鳴嶺猿吟
夜宿鹽浦浪高岸嵐吹皓月冷

渡口郎船風宮出波頭謫處日暗看
洲廬夜函他郷淚岸柳秋風客情
蒼波路遠雲千里高岸山深島一聲
ほのぼのとあかしの浦の朝霧に
しまがくれゆく舟をしぞおもふ
わたつみのよなよなてらす月なれや
さかえこしかの世のなかばかは
ちはやぶる神のいがきもこえぬべし
ひとよばかりの関もすえじと

庚申

年長無学推甲子夜寒初共守庚申
己酉年終冬日少庚申夜半懐旧厚
おきなのかえりかしいきのまつ
あまやいりたつうとを屋紀の
いつこすかひとよもごろもうしのやしきを
たちこめるうのえさかえおまつりを

帝王付法皇

漢高三尺之劔坐制侯張良一卷
之書立登帝傅
項羽〻書鴻門寄情於一曲〻客淚
袒〻帰沛郡傷思於四方〻風
海安危賊掌内百主理乱懸心中
幸肇蒙無為代侍作犧皇向〻人
白皇自在長生殿不向蓬莱玉女家
二流秋清月之外恵茂孤山〻陰
剣変作瀬〻色寒々周口沙長力嚴
之頃洋〻滿耳
梁元音好春日〻〻月粉落周穆新會
西母〻雲歓帰

布政之庭風流未必歡於鳳凰之
者此池也好文之世徳化未必光于
夷荻之者我君也
榮啓期之歌三樂未知常樂之門
皇甫謐之述百王猶暗法王之道
玉宸日除文鳳見紅旗風虚書竜掃
刑鞭蒲朽螢空去諫鼓苔深鳥不驚
なかいはまりりくやこうられかひに
いまはらへとさく屋ゐのうか
ひまかかにやまこうしもたえせぬやし
ちとせのくたつなきをきのま鋒
親王　付王孫
庫車收峯貴去主香杉細馬豆豪家郎
東平蒼之雅章寧非漢皇康孝之子双

之帝武桂陽鑠くゝ文辞亦見於帝家

愛才八くゝ子也

二都好勁健也七尺屏風其侍高

淮南水神仙也一旦乗雲而何益

冊巻已知為子道秋風悲歌別雲

我日暮行无何到梧桐秋風一片煙

此花非是人間種瓊樹枝頭第二花

洗花非是人間種瓊樹枝頭第二花

つ[illegible]ゝやうたのとく[illegible]

つくりきてこれをみる[illegible]

丞相 付執政

季文子妾不衣帛魯人以為美談

公孫弘身服布被汲黯議論多詐

百里奚乞食於道路穆公委以政
寧戚飯牛於車下桓公任以國
孫弘閑閑無家客傳說舟忙不借人
西京帝門乃三陳丞相高高南山
子胥寧能無表可傳
周公旦去文王武王帝自知
其貴忠仁公者皇帝之祖皇后之父
世推其仁
傳氏嚴子風雖風塵於殷多之後裔
表賴之水猶空滑於漢躬之初
春過夏河表周傳
旦南言北鄭大射

やまはらくつがくまらくをひらくれ
らからくへんもう分うるうか

将軍

三尺劍之氷在手一張弓秋月為心
雲中放馬別書改雲外長射色
千里征戎征馬疲十年離別故人稀
隴山雲晴孝持軍らくは家類水浪同

桑弧蓬矢小丈夫
職列虎牙雄拉武勇於漢四七将
学抽藤角家味文章お魯二十篇
雄劍在腰拔則秋霜三尺滌炎自口
吟亦寒山一聲
地勢劍影便地死馬悪衣事欲噛人

[illegible]

判史

[illegible]

詠史

燈暗村夜深四面楚歌声
賓鴈驚書秋塞落牡羊朝乳歳祀空
他日遼兆泰虎口尊の羊初謁漢竜顔
[illegible]

王昭君

琴苦幸動顰顔美人今却似畫圖中
身化早為胡村骨家妻作漢宮人
翠黛紅顔錦繡粧泣寺沙塞出家郎
邊風吹盡秋心緒離水流添長恨行
胡角一聲霜後月漢家万里月前陽

昭君若贈黄金路定是終身奉帝王
数行情淚孤雲外一點愁眉落月邊

妓女

容貞似舅潘安仁之外蝋氣調如元
崔季珪小妹

次

外人不識面目唯有羅衣染沈香
（ゲンネルリャウビンハ アキノセミノツバサ）
嬋娟如鬢秋蛾翠窓鴉双蛾遠山色
（センケンリョウビンハ アキノセミノツバサ）
美容如帛度面後春風吹絃柱花
（ビヨウニヨ ホウ ドメンノ ハナ）
書延年く餉後託一研以始成淚子
（シエンネンガ カザン ツイテ ケンニ モツテハジメテ ナガノコトシ）
ちゝ你時上裏酬而密異
（チチヨ ヤ ヤ ウラニ ヤ ミツ）
秋夜待月移早出山之清光夏日思
（シウヤ ツキヲ ウツシ ハヤ ヤマヲ セイクワウ ナツノヒ オモヒテ）

蓮初見穿水之紅艷
（レン ハジメテ ミツノ コウエン）
羅衣不皇四人厨鳳釵留物錄香色
（ラ イフ ヨ ヒ ヤ ホウ サハ カツテ クユ サヒメキラカウノ ハコヲ）
和風之導薰煙出珍重紅房秀琴處
（ワフウ ノ ミチビク クン エンノ イツヲ チン テ ヤ コウ バウノ スイ レンニ）
嬌蓉錦帳長春夢君美蓮處悅春釵
（キヤウヨウ カケテ キン チヤウヲ ナガク シユンムニ キミ ビ レンシヨニ エツ シユン サ）
雙鬟且理春雲髮月代鏡生曉川蟬
（サウ クワン ヒ リ シユン ウンハツ ツキ ヤ カガミ ヘ ヒ ツキ セン）
羞敢宮人才色兩拭樓上下詔來秦
（カズ ヤ キウ レン ノ サイ シヨク ノ カタヲ ナウ ロウ ヒ ヤ クタリ ソウ）
（ハキヤスシ ハシメテ ミル ウガノ ミツノ コウ エン ヨ）

歓交入日新飢驚遊泉弱舊場筆
ものいうせくもりかひひらいうよ
とめのもうい立くめし

遊女

秋水清鳥浮女佩翠低面白百事礼法陰妖毋中恨
上一すま歓云ふ同

和琴後調除覃月書檜高推入水煙
立ちもれかうしるなかりまのこるれハやらもいたりし

光人

昔為京洛拝祀客今作江湖潦倒身
治眠早覚常弱病力久衰不待年
尋二憐汝非他事天賓遠民見称

和琴後調除覃月書檜高推入水煙
立ちもれかうしるなかりまのこるれハやらもいたりし

光人

昔為京洛拝祀客今作江湖潦倒身
治眠早覚常弱病力久衰不待年
尋二憐汝非他事天賓遠民見称

紅葉黄落一樹春色秋蛩結愛抽
春一身壮心老思
少年樂天三年猶已衰之齢也迢迢
陶地一日非吾等事
太公望遇周文渭濱釣叟面
騎星書埋漢惠高山流水眉

懐舊

黄壌誰知白頭獨憶君唯将冷年
一麗故人文
長夜君元去弱年秋霜何移風滿衫

成泉下故人多
何事聊為幻化多
今宵半夜泉
雖別舶故龍以情
王尹指頭鳳凰斜
人事合醉花
地花每春色而立不歸
南樓翫月之人月與秋期而身何去
多少音信昇仙仗人立初於後園
水堂夏夕流年淚花堂春色為紅
林芳夜声誉不吾風論力抑猶強
醉對落花而自覚眠思餘波之紅
ますかたこうこうのかすひかく
みひとけかくるあ
交友

琴詩酒安皆地下孤墓月夜獨愴君
陽雲典湖高郭千年水流情舍如初
音容顧我長眠人間日暮君已泉
蕭条稽之古廟託婦異代く変
張僕射く重新才推力忘年く交
裴文稽後園君久官禮部孤墳新刻
月羊太傅く早世行客陽公感怜況
之雲
役鈴良木真摧欲遺憂甘棠勿翦謡
いかへ人世の中れ去
ものこころとしあれそ
むしなれ人かくくらう
ものくれかをうう
世中ようなしかとあるよ
なよろうくくもかろう

述懷

專諾莉卿之感激依甘豫之恩遇

心力恩使命依義將

危蚤收責勾踐棄扁舟於五湖咎犯

討罪之去亦委於天下

既其憤懣不窺山洲者之知驥龍

[illegible]蟠習其韓弟不視[illegible]邦去[illegible]知英

雄之所[illegible]

人間禍福愚[illegible]新世[illegible]風波[illegible]不禁

車[illegible]騰病[illegible]駑兎[illegible]鷲[illegible]鳥[illegible]高

事[illegible]無[illegible]身也[illegible]解[illegible]欲[illegible]帰

危蚤收責掉扁舟而地名謝安辞功

雖孤雲而養志
異殿是象形之雲也
倍骨五の八踏
拳素〻空尚書亦天下之望也廣牙
不可以拳拳之月
齡亜顔駟已二代五猶沉恨同伯寄
歎五嗟而將去

言下暗生消骨失矣中倫銳利人刀
載兜一車何是最棹亜三度味爲尾
楚三回醒絶何蓋固伯夷飢味必奬

慶賀

劔佩曉趨双鳳闕煙波夜宿一漁舟
鈴塘玄圃三千里一首風光任意看
想得江南諸父老国君敵擢子孫多
吏部侍郎職侍中奏着緋初出紫微宮
銀魚腰曳辞春殿鶴氅風

祝月

一言交半駅雲万里眼今窮
省躬三徳恥相久君是帝初竹馬童
うれしさを　さうこうの
こうひいはかもあまり　うるおう

祝

嘉辰今月歓無極万歳千秋楽未央
長寿殿裏春秋富不老門前日月遅

玉の代のちよう[illegible]
いくとせすてふ[illegible]
[illegible]
[illegible]

恋

為君養容顔君閨房不聞書
カレモ事容飾玉見入翠[illegible]
更閨房長門月冷秋

閨扇書而去絶
行衾見月惜心色夜雨閨猿門陽
春風桃李花開日秋露梧桐葉落時
夕殿螢飛思情[illegible]秋燈挑盡未能眠
南翔北鴈郭外寒温於秋鴻
流只寧騰巴人陰月

国色国中花養殺活君許物一枝玄
寒宝獨外無与敵不妨蕭郎住馬蹄
貴妃楊家姉妹堤養楊柳姉
わうこひいゆくゆくしてもおし
ありとかうやとなるとしてうて
きのかりくるよりあまりよりぬきて
まくとなるそまつよまいおら
しうとしてひくくうとうなるつこ
ゆうりあまりそまらそつこ

無常

観身岸額離根草論命江島不繫舟
年々歳々花相似歳々人不同
蝸牛角上争何事石火光中寄此身
生者必滅釋尊猶未免梅檀ふ煙樂垂
長生天人猶尋九重裏日

朝右紅顔跨世路高白骨行郊原
雖観秋月照中新春花愛重心
[illegible]
こきゆくふねのあとのなみ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

白

秦皇漢武何在哉
[illegible]
銀河登朝素秋天
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

霜鶴沙頭皆可愛　唯嫌年鬢漸皤然

あろくしし羅またる夜の月うけよ
ゆふ惜しつかて山めのあるおさお

和漢朗詠集下
元文二丁巳歳仲冬吉旦
大坂心斎橋筋
書林　塩屋平助

謡秘伝抄　全
夫謡は本朝音楽の第一として口伝秘蔵なりしかども家々に秘して見る事かたし此書は名家の先生方の秘書を乞求めて無縁の人にも伝へ仏神の法楽酒宴の席に至るまで唄ふべき節口中開合五音の習ひ拍子節の次第つかひやう乱曲の折から謡ふ者嗜むべき事を委しく記し初心稽古の便りとなれり

謡字引　内外二百三十番

唱曲舞鏡　小本一冊

拍子笙　いろいろ組の拍子をくはしくしるし

謡手引草　謡けいこの人此本をもちゐてたよりとすべき書なり

神易選　小本一冊
此書は日本の占の法にして天児屋命天太玉命二神のつくらせ給ひし占なり其吉凶善悪縁談旅立失物病人聟を取る方角一生の運ほか万此書を以て心を信にして占ふ方の吉凶善悪を知る事其掌をさすがごとし初心の人も見やすく占ひ知るべきなり

大新増糸竹初心集
当世琴三味線の調べ方の委しき事あまたの唄を集めて此外に又当世はやる唄を数百余集め初心の人にも見やすく都よりはやり出たる唄を見るにも当世はやりの節の

諸國石佐雲根志　新山口　太内小繁撰　全六冊

同後篇　右同　全六冊

同三篇　右同　全六冊

此書は諸國之名石を石郷人の玄佐ろ
拾ひ集め諸家紅塵の奇觀及び小繁先生
奉来捜収る諸名石数品集め奉く注説を
且先生小繁先生諸國紀行の物おい
妙く石思議の事ども其他玉孔し諸名
家の孤流と称て最石紅塵物語を
家の仮くに多に試書を見れば是
諸國紀行脚の如他一て名産名石名
石思議を知るの玄方りと事の西花江赤花
紀ども以る玄より面白所と花篇より今
三篇と玉晩板刻し日く流行海内に紀行

遊りを新く諸人見まこと今や
此書盛度も〳〵板に〳〵て国の遊り
てまた合のまかつうひと思大成こと

筆受実授法　全

世まどんうう泥板板ろこのへ其後と見る
の法明ろ〳〵ぬを沢いまの見こ玉八篇こそ二つ
と新時に二天他又ろへて又と他板ぬん面
と見ぬしが又世見ろ〳〵ろ巻ろまろ見ひと
ても又百見と初ろ〳〵武に世見と二百ぬ二ろと
ぬ二ろも新時に又世ろ又ろ又ろ其ろ〳〵
ろうぬと見を略向ろしろんろろと一
二三又いろはろ合年を紀二ろと二ろも
いろ年ろのひ〳〵きろ物猿り抽ろも
其後何ろ〳〵郎庵に初ろ書ろう